

# MICE JCSモデル

Withコロナ社会における  
安全・安心なMICE開催



# 目次

はじめに	3
◆Ⅰ ニューノーマル時代の MICE 開催	4
◆Ⅱ MICE における感染リスク	6
◆Ⅲ 会期前の実施事項	8
◆Ⅳ 会期中・会期後の実施事項	11
◆Ⅴ 実例集 自治体イベント(オンライン開催)	15
実例集 国際会議(ハイブリッド開催)	16
実例集 展示会(現地開催)	18
実例集 学術集会(オンライン開催)	20
実例集 学術集会(ハイブリッド開催)	22
参考資料・監修	23

## はじめに

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の世界的な拡大により、2020年2月以降、多くのMICEが中止・延期となりました。一方、人と人とのコミュニケーション、ネットワークの形成、学術振興やビジネス・イノベーションの機会創出のため、MICEは今後も社会の発展に不可欠な要素です。

MICEの多くは、ビジネス関係者・アカデミア等、それぞれの業界・学会に属する方々が参加するビジネスイベントです。MICEでは、参加者は事前または当日に登録する場合が大半で、有事の際、主催者が登録参加者へ連絡が可能であるという特徴があります。適切な感染防止対策を実施した上で、安全・安心に留意しながら、少しずつMICEの現地開催が再開されています。

日本コンベンションサービス株式会社(JCS)は、Withコロナ社会においてMICE主催者の皆様に安全・安心なMICE開催を行っていただくために、「MICE JCSモデル」を策定しました。

本モデルでは、感染症の専門家の監修に基づき、MICE現地開催における感染リスクを洗い出し、推奨される実施事項を「会期前」「会期中」「会期後」の時系列にまとめました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、急増したオンライン開催・ハイブリッド開催という新しいMICEの開催形態についても事例集と共に最新情報を掲載しています。

主催者の皆さまには、本モデルをご活用頂ければ幸いです。

なお、本モデルの内容は、新型コロナウイルス感染症への最新の知見等を踏まえ、必要に応じて適宜修正・更新を行います。



# ニューノーマル時代のMICE開催

## MICE開催形態の変化

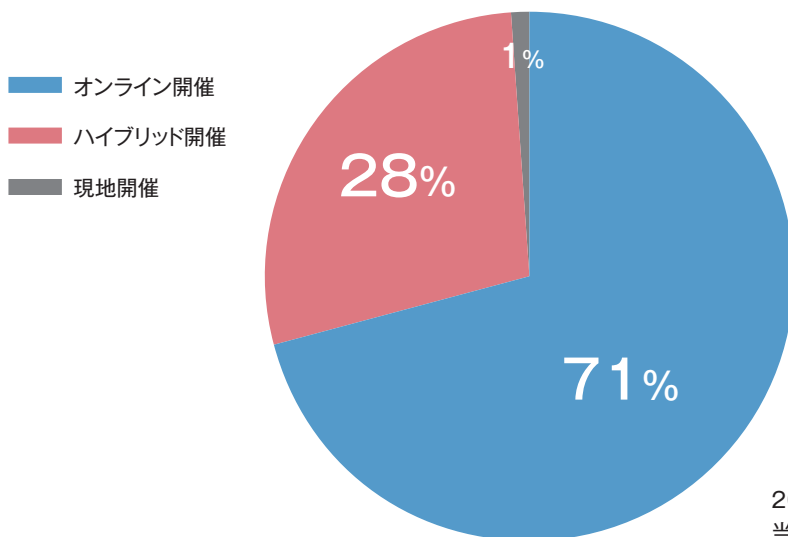
新型コロナの感染拡大により2020年2月頃からMICEの中止が相次ぎました。それまで現地開催で「人が集まること」が前提となっていたMICEですが、コロナ禍で開催形態が多様化し、オンライン開催やハイブリッド開催が急増しました。

### MICE開催状況(当社実績)2020年4月～2021年3月

#### ■ 月別推移



#### ■ 開催形態別割合



2020年4月～2021年3月の  
当社運営件数を100%とする。

## ■ 現地開催・オンライン開催・ハイブリッド開催

各開催形態にはそれぞれ特徴があります。Withコロナ社会、そしてAfterコロナ社会において、MICEの開催形態は多様化し、オンライン開催やハイブリッド開催等、目的に応じた形態で開催されると考えられています。

### 各開催形態の特徴

(JCS作成)

	現地開催	オンライン開催	ハイブリッド開催
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主催者、参加者共にイベント会場に足を運ぶ、従来の形態</li> <li>●講演者や来場者の熱量等現地ならではの臨場感を体感できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●すべてオンラインで完結する</li> <li>●ZoomをはじめとしたWeb会議システムやYouTube、バーチャルイベント専用のプラットフォーム等のオンラインサービスを介して行われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンライン開催と現地開催を融合してイベントを開催する</li> <li>●イベントを開催しながらライブ配信を行い、現地参加とオンライン参加の両方が可能</li> </ul>
参加者の利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ オンラインに比べると、時間・場所が限られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時間・場所の選択肢が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 参加者のニーズに合わせ、現地参加とオンライン参加が自由に選択できる</li> </ul>
参加者同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 対面での懇親会や商談等が可能。空き時間を利用した交流機会も作りやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 懇親・交流の手段が限られる。セッションでの議論はチャット機能等で対応する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現地参加した人は懇親会等で交流を深めやすい。オンライン参加した人はチャット等を使用する</li> </ul>
開催コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従来の開催コスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会場費や設営費は最小限または不要だが、サーバーやシステム・機材費がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 現地とオンラインの同時開催となるため、コストは上昇する</li> </ul>

## ■ 開催形態・会場の検討

会場選定にあたっては、現地開催・オンライン開催・ハイブリッド開催のうちどれを採用するかにより必要となるキャパシティや設備機材が異なります。施設の感染症対策基準としては、国際的な衛生認証であるGBAC STAR™認証やSafeguard認証が挙げられます。

### ■ GBAC STAR™認証

世界的な洗浄業界団体International Sanitary Supply Association (ISSA)にて洗浄、消毒および感染症予防のプロトコルを実施する施設の運営基準を提唱している部門、Global Biorisk Advisory Council (GBAC)による国際的認証プログラム。JCSはPCOとしての知見を活かし、MICE施設に対してGBAC STAR™認証取得の支援を行っている。



### ■ Safeguard認証

世界最大級の試験・検査・認証機関であるビューローベリタスが2020年4月に新設した検証サービス(RESTART YOUR BUSINESS WITH BV)で、感染予防策、安全・衛生基準に対し、その運用を書類や現場検証等を経て発行する。上記基準は、WHO(世界保健機関)、ILO(国際労働機関)等のガイドライン等を基にビューローベリタスが策定したものである。



## 新型コロナウイルスの感染経路

これまでのところ、新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染で伝播と考えられています。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話する等の環境では、咳やくしゃみ等の症状がなくとも感染を拡大させるリスクがあるとされています。

### 飛沫感染

感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つば等)と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻等から吸い込んで感染します。空気中に浮遊する飛沫粒子によるエアロゾル感染(マイクロ飛沫感染)の重要性が指摘されています。

### 接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染します。

## MICEにおける感染リスクの精査

MICE開催にあたっては、その性質上多くの参加者や運営スタッフを一定の範囲に集めることから、感染リスクに応じた対策の検討・実施が求められます。

### 「3つの密(密閉・密集・密接)」の回避

- 1 密閉空間** 換気の悪い密閉空間である
- 2 密集場所** 多くの人々が密集している
- 3 密接場面** 互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や共同行為が行われる

という3つの条件のある場(いわゆる「3密」)では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられています。MICE開催においては、こうした3密の発生を回避し、ソーシャルディスタンスを確保するための対策を講じることが不可欠です。

参考

内閣官房内閣広報室 新型コロナウイルス感染症に備えて  
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

## 飛沫感染のリスク

会場内の換気の状態を確認するとともに、ソーシャルディスタンスの確保が重要です。また、参加者・講演者・出展者・運営スタッフ等が現地会場で対面でコミュニケーションを図る場合、会話や発声による感染リスクにも注意する必要があります。そのためエアロゾル感染抑制に有効なマスクの着用は必須です。

### チェックポイント

#### パブリックスペース

混雑時の参加者同士のソーシャルディスタンス

#### 受付・クローク

待機列、運営スタッフと参加者の距離

#### 講演(セッション)会場

入退場時の行列、テーブル・座席レイアウト、講演者同士の距離、講演者と参加者の距離、換気の状態

#### 展示会場

ブース内説明時や商談時の出展者と参加者の距離、ブースの配置、通路幅

#### 懇親会・レセプション会場

テーブル・座席レイアウト、参加者同士の距離、マスクをはずす飲食、アトラクション(大きな声を出す場合)、換気の状態

## 接触感染のリスク

他者と共有する物品やドア等、手が触れる場所と頻度の高いところを特定し、感染対策を行います。

### チェックポイント

#### パブリックスペース

テーブル、イス、エレベーターのボタン、エスカレーターのリフト、手すり、トイレ

#### 受付・クローク

現金、クレジットカード、名札、コングレスバッグ、プログラム等配布資料、クローク札、荷物

#### 講演(セッション)会場

ドア、テーブル、イス、演台、マイク、共有PC、同時通訳レシーバー

#### 展示会場

展示ブース、展示物、配布資料、名刺

#### 懇親会・レセプション会場

ドア、テーブル、イス、食器、カトラリー、グラス

## 集客に関するリスク

来場が見込まれる参加者と会場のキャパシティを勘案し、ソーシャルディスタンスが確保できるかを事前に検証することが必要です。その際は、政府の示すMICEにおける収容率や人数上限等の開催制限情報をもとに入場制限の判断を行います。

また、海外からの参加者がある場合、入国から14日間の待機期間が過ぎているか否かを確認します。

※MICEにおける収容率や人数上限等の開催制限、海外からの入国者の待機期間については、国の最新の方針に従います。

# Ⅲ 会期前の実施事項

## 開催方針の策定

国や自治体が表示する最新の警戒レベルや指針を確認し、主催者としての開催方針を策定します。

- 主催者、運営事業者(PCO)、会場施設等の役割分担・責任範囲を定め、関係者間で共有するとともに、それぞれの組織における責任者を決定
- 延期や中止、あるいは現地参加者数を制限したハイブリッド開催やオンライン開催への開催形態の変更を判断する基準・プロセス・期日を定める
- 海外からの参加者や感染が疑われる参加者に対する対応方針を事前協議
- 参加登録費が有料の場合、新型コロナウイルス感染症を理由とするキャンセルに対しての返金可否について、あらかじめ検討のうえ規定する
- 有事に備え、会場の管轄保健所、医療機関を把握
- 複数の催事が開催される場合の施設内の空気循環や人の導線等について会場と打ち合わせする

## 事前の情報発信

公式WebサイトやSNS、参加者への一斉メール等を用いて、感染症拡大防止への取り組み内容や参加者への依頼事項について情報発信を行います。

- 来場自粛の基準提示  
(例) 発熱(37.5度が目安)ないし咳・咽頭痛等の症状がある場合  
過去14日以内に感染が継続拡大している国・地域への訪問歴がある場合  
新型コロナウイルス患者の濃厚接触者と判明した場合 等
- 「ソーシャルディスタンスの確保」「マスクの着用」「手洗い」「咳エチケット」等の基本的な感染症対策の徹底と参加者への協力要請
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)の活用について周知

## 事前の参加登録

事前参加登録を原則とし、収容人数の管理を行います。また、万が一会期後に感染が疑われる参加者・運営関係者が発生した場合、必要に応じて保健所等に情報提供できるよう適切に情報を管理します。



## 情報セキュリティ管理の重要性

MICEでは開催形態に関わらず、運営において様々な関係者から機密情報をお預かりし、管理することになります。お預かりしている情報資産に対し、必要な保護と適切な対策を構築しなければなりません。MICE運営の際には、以下の項目について運営会社の状況を確認しましょう。

- 1 情報セキュリティに関する方針の有無、目標設定
- 2 情報セキュリティマネジメントシステムの構築状況
- 3 対象となる情報資産の取り扱い及び管理に関する確認
- 4 法令、規制及び契約上の要求事項等の遵守状況
- 5 情報セキュリティに関する内部規程の整備、取り扱いに関する管理手法の有無
- 6 監査体制の整備・充実
- 7 情報セキュリティ対策を徹底したマネジメントシステムの実現性のチェック
- 8 情報セキュリティ教育の実施状況

### ■ プライバシーマーク制度

インターネットの利用が増えるにつれ、個人情報保護の意識は年々高まっていますが、個人情報を適切に扱う体制を整えていることを示す基準としてプライバシーマークがあります。

プライバシーマーク制度は、日本産業規格「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合して、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等評価して、その旨を示すプライバシーマークを付与する制度です。

運営会社を選ぶ際は、プライバシーマークを取得している企業を選びましょう。

JCSはPCOで初めてプライバシーマークを取得した会社です。



### Point

参加者の連絡先等個人情報を入手する際には、あらかじめ利用目的についての通知が必須です。また、オンライン開催において、参加者の視聴ログを出展者や協賛社（第三者）へ提供する場合やプロフィール情報が他の参加者へ開示される場合等は、その旨も本人へ事前に同意を得る必要があり、この点は事前の参加登録においても同様です。

## ■ オンライン開催・ハイブリッド開催の検討事項

オンライン開催・ハイブリッド開催の場合、現地開催とは異なる検討事項が複数あります。

- 講演をライブ配信する場合、会場のインターネット環境が特に重要。Wi-Fiではなく有線LANの使用を推奨
- 会場の防音性や照明が配信に適しているか確認
- 配信ツール、運営スタッフの役割分担、配信トラブルへの対応、参加者へのテクニカルサポート等について事前に検討

### Point

**共有回線**(1本の有線LANを分岐して複数会場で使用)は、他会場のインターネット使用状況に影響を受ける可能性があります。**専有回線**(1本の有線LANを1会場で専有使用)を用意することで安定して高速な通信が期待できます。

## ■ オンライン開催形式

(JCS作成)

	スタジオなし 主催者・参加者、共にオンライン	スタジオ使用 主催者は会場、参加者はオンライン	スタジオ複数使用 各地会場からマルチオンライン配信
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Zoom、Webex等のWeb会議システムやYouTube Live等のライブ配信サービスを利用する</li> <li>● すべてオンラインで完結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインイベント用のプラットフォームを利用する</li> <li>● オフィスやホテル、貸会議室を配信拠点とし、参加者はオンラインで参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインイベント用のプラットフォームをカスタマイズする</li> <li>● 複数拠点から中継するライブ映像や収録動画を切り替えて配信</li> </ul>
推奨イベント	セミナー、研修、講演会、社内イベント等	セミナー、講演会、商品発表会、表彰式、顧客向けイベント等	大規模カンファレンス、社員総会、株主総会、顧客向けイベント等
目的	情報発信、動画視聴、リード獲得等	情報発信、動画視聴、リード獲得、参加者同士の交流、ビジネス商談等	情報発信、動画視聴、リード獲得、参加者同士の交流、ビジネス商談、海外拠点との取引等
開催コスト	会場費や設営費は最小限で対応可	スタジオやサーバー環境を構築し対応	機材や専門スタッフを各拠点に手配
必要なリスク対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント運営環境は、利用するシステムや配信サービスに依存するため、入念な動作テストを行う</li> <li>● 当日の進行確認が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加人数に応じたサーバーの増強</li> <li>● 予期せぬエラーに対処するための監視人員を配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加人数に応じたサーバーの増強</li> <li>● 各拠点に、予期せぬエラーに対処するための監視人員を配置</li> </ul>

※ ITシステム等に起因する障害その他ITシステム等の支障がやむを得ず生じる場合がございます。個々のプラットフォームに応じて利用方法・条件等をご相談ください。

# IV 会期中・会期後の実施事項

会期前の事前準備段階で決定した方針に基づき、会期中のあらゆる場所、場面においてその方針を守り、開催規模・会場施設等の実態を加味した上で適切に対策を講じます。

以下、MICE開催の主なシーンにおける、主催者あるいは運営事業者が参加者の安全を守るために参考とすべき対策を示します。

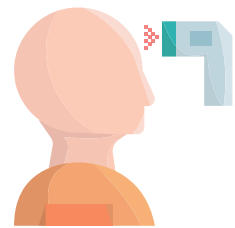
## パブリックスペース

- パブリックスペース利用機会の分散化
- サインやモニターで感染対策の注意喚起を徹底
- 導線や待機列の分離、必要に応じてパーテーション等を活用
- 運営スタッフによる誘導案内は拡声器等を活用
- エレベーターの人数制限

## 受付

### 検温・体調確認

- サーモグラフィーや非接触型体温計等の活用
- 入場時に発熱が判明した場合に備え、出入り口付近に隔離スペースを設置



### ソーシャルディスタンスの確保・マスクの着用

- プログラム構成を工夫し、来場・退出タイミングを分散化
- フロアマーカ等を使用し参加者を誘導
- マスク未着用者へのマスク着用依頼
- 来場者管理を行い、必要に応じて入場を制限
- スタッフ同士も適切な間隔をあけるよう配置



### 接触感染・飛沫感染リスクの管理

- 自動受付機や二次元バーコードリーダー設置等、非接触受付を推奨
- 現金授受を避け、カード決済等キャッシュレス決済の導入を検討
- 手袋、アクリル板、ビニールカーテン、フェイスシールド等の使用
- コングレスバッグ、パンフレット、チラシ等は手渡しを避け、カウンター等に配置する据え置き方式で実施

## クローク

- 手荷物の自己管理を推奨
- スタッフの手袋、アクリル板、ビニールカーテン、フェイスシールド等の使用
- クローク札の消毒、または使い捨ての紙札を使用



## 講演(セッション)会場

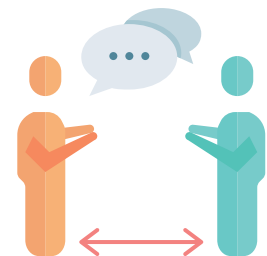
### 3密回避策

- 事前参加人数の把握と入場制限等の対策
- 入退場口の区分け
- 立ち見の原則禁止
- 換気システムの活用や入退場口等の扉を開放する等、会場内の換気に努める



### 感染リスク減少対策

- 通路や共有部に消毒液を設置
- 講演者間、講演者と参加者間のソーシャルディスタンスの確保、アクリル板の設置
- マイク等共有物の頻繁な消毒・交換
- 同時通訳レシーバー等の事前消毒(または貸出中止)



## Point

従来手渡しで配布していた同時通訳レシーバーに代わり、ご自身のスマートフォンをレシーバーとして利用するシステムの活用が進んでおり、感染予防対策として一役かっています。

## 展示会場

- 会場内の混雑状況を頻繁に監視し、参加者同士の距離が十分に確保できないと判断する場合には入場制限を行う
- 導線に配慮し、ゆとりをもったレイアウトを作成する
- 出展品や商談スペースの消毒等、接触感染防止策を出展者へ依頼
- 説明資料の手渡しは避けカウンター等に設置、資料のデジタル化も検討
- 来場者と出展者双方のマスク着用を徹底
- 来場者への飲食物の提供は極力控え、提供する場合はP13の懇親会・レセプション会場を参照

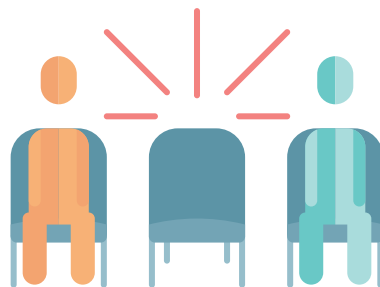


## 懇親会・レセプション会場

- できる限り立食形式は避け、着席形式での実施を検討
- ソーシャルディスタンスが確保できるようテーブルやイスのレイアウトを工夫
- 食事中以外はマスク着用を厳守とし、あわせて食事中はマスクなしで会話をしないようアナウンス等で参加者へ周知徹底する
- 食事はbuffet形式を極力避け、パッケージされた食事を個別提供する形式や弁当等での提供を行う
- 飲食用に感染防止対策を行った会場やエリアを準備。指定場所以外においては飲食を制限する
- 開催時間の短縮や屋外スペースの活用も検討する

### Point

参加者だけでなく、主催者や運営スタッフの飲食や休憩時間の過ごし方についても同様の注意を払う必要があります。控室等の十分なスペースの確保、常時換気、頻繁な消毒等に努めることが重要です。



## 運営スタッフの管理

- 関係者全員にオリエンテーションで感染防止対策(マスクの着用、小まめな手洗い、手指消毒等)について十分な説明を実施
- 毎朝の検温の義務付け
- 発熱症状や体調がすぐれない場合は自宅待機するよう徹底
- スタッフが急遽欠席した場合のバックアップ体制を構築



### Point

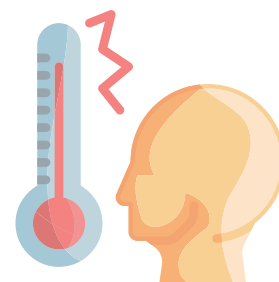
MICE主催者の判断により、運営スタッフの自主的なPCR検査や抗原検査が実施される動きも見受けられます。JCSが運営を担当した国際会議や学術集会においても実施例があります。

## 有事対応

感染が疑われる参加者・運営関係者が発生した場合に備え、必要な体制を事前構築し、対応手順についてマニュアル化しておくことが重要です。

### 参加者・運営感染者が感染を疑われる症状を呈している場合

- 1 速やかに受付付近に設置した隔離スペースないし指定救護室へ隔離
- 2 マスクや手袋、フェイスシールド着用の上、距離をとって対応
- 3 速やかに医療機関や管轄保健所へ連絡し、指示に従って対処
- 4 参加者の症状により、主催責任者ないし運営担当責任者等より説明し帰宅いただく



### 参加者・運営関係者または保健所から感染者発生の報告があった場合

- 1 保健所の指示に従い情報提供や施設消毒を実施
- 2 濃厚接触者の可能性がある関係者には、感染が疑われる症状が出た際は医療機関での診察を案内
- 3 個人情報の取り扱いには十分に配慮する

#### Point

迅速な初期対応のためには、事前に対応方針やフローを決定しておくことが重要です。

- 意思決定フロー（開催の継続可否、決定事項の発表方法等）
- 感染者発生時の告知の方法・範囲・優先順位
- 運営関係者内での役割分担の明確化（保健所への対応、告知、施設消毒等）

## 会期後の実施事項

会期終了後、参加者や関係者から感染症の疑いが出た場合、会期中の有事対応と同様の対応を行います。なお、参加者・関係者名簿の取り扱いについては、個人情報の観点から管理には十分な対策を講じる必要があります。

#### Point

オンライン開催・ハイブリッド開催の場合は、講演や展示のオンデマンド配信やコンテンツのアーカイブ化により、会期後に参加者の好きなタイミングで何度でも視聴が可能となります。



### 世界と繋がった福岡市のスタートアップイベント

ASCENSION 2020は、福岡市のスタートアップ支援ネットワークを活用した国際交流オンラインイベントです。テーマは「Beyond Coronavirus(=コロナを乗り越える)」。台湾デジタル担当大臣 オードリー・タン氏と福岡市長 高島宗一郎氏による「スペシャル対談」をはじめ、プログラムは多岐に渡りました。

JCSは、全体統括担当企業として、イベントの企画・運営・通訳・キャスティング、広報業務等を通じて、福岡市をサポートしました。



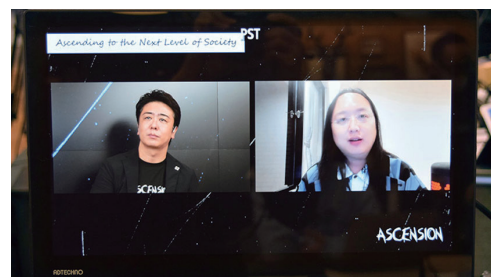
### 国内外の起業家が語る! 「オンライン同時通訳」を使用したオンライン対談

福岡市は2012年、「スタートアップ都市・ふくおか宣言」を発表し、以来グローバル創業都市として官民共働で“創業支援事業”に力を入れています。今回は、旧大名小学校をリノベーションしたグローバル創業都市のシンボルとなる官民共働型のスタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next (FGN)」をオンラインイベントの配信会場としました。

当日は日本を含む15の国や地域、700名近くが、インターネットを通じてイベントに参加。AIが「自動翻訳」と「文字起こし」を同時に処理し、リアルタイムでライブ映像に字幕表示し、オンライン上でも有効なコミュニケーションを可能にしました。自動翻訳が難しいプログラムでは、JCSが提供するRSIシステム「オンライン同時通訳」を使用し、スムーズな通訳を実現しました。



現地対談の様子



オンライン対談の様子

### RSIシステム「オンライン同時通訳」

国内・海外を問わず複数の拠点間にて、少人数から大型会議まで対応したりリモート環境の通訳を提供しています。RSI (Remote Simultaneous Interpreting) は、ZoomやWebex等、あらゆるWeb会議システムに対応しています。





### コロナ禍初の大規模国際会議「京都コンgres」

国連主催の第14回国連犯罪防止刑事司法会議（以下、京都コンgres）が、2021年3月7日（日）から12日（金）の6日間、国立京都国際会館で開催されました。コロナ禍においては国内初の大規模国際会議となり、閣僚級の代表団や国連職員を含む、152カ国・地域、約5,600名が参加しました。

本会は現地とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で実施し、JCSは会場設営、運営、同時通訳、送迎輸送、サイドイベント、展示など業務全般を担当しました。



#### 感染症対策を最優先し、安全・安心の確保を徹底

海外からの参加者には事前にPCR検査を受けていただき、京都滞在中には厳格な行動制限をお願いしました。各会場では「入場数制限」を設け、会場の席に座った参加者の記録を取り、会場ごとの滞在人数と滞在時間を管理できるようにしました。

入場時には、サーモグラフィー検査で発熱者の探知を可能にし、人との間隔を空ける際は、UN基準のソーシャル・ディスタンス（2メートル）を厳密に遵守して参加者とスタッフの安全・安心を徹底。来場者はFFP2認証の高性能マスクを着用し、人と人との接触時における感染リスクに配慮しました。

会場内にはPCR検査が行える「特設クリニック」を開設し、医師と看護師が常駐。参加者を対象にワンストップな医療サービスを提供する等、万全の受け入れ態勢を整えました。



PCR検査に対応した特設クリニック



安全面に配慮した座席レイアウト



注意喚起を促したパネルスタンド





菅義偉首相の開会式スピーチ



オープニングを盛り上げた歌舞伎舞踊



感染症対策を徹底している、各国の代表団



展示会場で日本文化体験を楽しむ参加者

## オンライン参加者に対応した、バーチャルイベント

現地会場まで足を運ばなかった参加者に対しては、バーチャル空間で全体会合やワークショップの様子が視聴できる「オンラインポータル」を用意しました。

主催者は、リアルタイムのライブ配信と時差等を考慮したオンデマンド配信を自由にカスタマイズできる“プラットフォーム”を活用することで、目的に応じたプログラム進行が可能になります。JCSは、この仕組みを活用して「バーチャル展示会」の空間もオンライン上で構築。5つの「Exhibition Hall」から自由にオンライン展示ブースへ移動できる仕組みをつくり、出展者の動画・資料の閲覧だけでなく、チャット対話ができる環境を整えました。

参加者同士が交流できる「チャットラウンジ」は、思いがけない出会いによるイノベーション創出が期待できる新しいハイブリッドイベントの形です。

ライブ配信  
オンデマンド配信  
バーチャル展示会





### 全国の「ものづくり事業者」が沸いた、リアル重視の展示商談会

中小企業 新ものづくり・新サービス展は、中小企業庁の「ものづくり補助事業」を活用して開発された、新製品や革新的サービス・技術等の成果を一堂に紹介する大型展示商談会です。出展企業による「ブース展示」を始め、来場者と出展者の出会いを促進する「ビジネスマッチング」や、著名な経営者やものづくりの専門家が登壇する「Withコロナ時代をテーマにしたセミナー」等、プログラムは多岐に渡りました。



### 安全・安心を徹底した会場で、900件もの商談支援数を記録

本展は、参加者の安全・安心を徹底した感染症対策をほどこし東京ビッグサイトにて現地開催しました。会場出入口の検温・消毒をはじめ、各展示ブースに設けた飛沫防止のビニールシート、企業ブースにおける商談のオンライン対応（一部）など、来場者・出展者の方々のご理解・ご協力を得ながら開催。会期中の3日間、来場者は9,000名を超えました。商談支援数は、前年比7倍を超える「約900件」を記録しました。



参加者間の距離を確保した座席レイアウト



二次元バーコードを使用した受付



安全面に配慮した商談ブース

ブース出展  
**594社** (前年比1.1倍)

Web出展  
**547社** (前年比1.7倍)

バイヤー招聘  
**72社** (前年比6倍)



## シンプルを追求した「展示商談マッチングサイト」を開設

コロナ禍での現地開催となりましたが、会期中の展示商談会を盛り上げるため、オンラインツールの活用も行いました。開催前のコミュニケーションの場となる「Webサイト」は“ユーザビリティ”を追求した上で公開しました。どんなユーザーでも使いやすいよう、シンプルかつ直感的な操作に対応したユーザーフレンドリーなデザインを採用。オンライン上の支援メニューは、本展の期待値を高めることを目的に開発した「来場者と出展者とのチャット機能」と「出展者検索システム」が、マッチングに貢献しました。

さらに、専門コーディネーターによる「よろず相談デスク」を加えた3つのマッチング支援メニューが、コロナ禍における「中小企業 新ものづくり・新サービス展」を支え、高い評価を得ることができました。



## リアルな価値、新ビジネスの創出に繋がる現地開催

本展の開催目的は、ものづくり補助事業に取り組んでいる事業者が、商談会を通して新規顧客獲得や販路を開拓・拡大し、事業を促進することです。補助事業の成果を一堂に紹介すると「新たな市場の創出」や「企業間連携の強化」といったシナジー効果が生まれるなど、本展は新ビジネスの機会創出の一翼を担っています。

ビジネスマッチングや商談会におけるこのようなイノベーションの機会創出は、オンライン会議で完全に代替することは困難と考えられており、Face to Faceでのコミュニケーションの重要性が再認識されはじめています。



### 約20,000名が参加したオンライン学術集会

パシフィコ横浜での現地開催を予定していた「第120回日本外科学会定期学術集会」は、新型コロナの影響を受ける社会情勢の中、参加者の安全・安心に最大限配慮する方針を掲げ、Webを活用した「オンライン開催」に変更しました。なお、パシフィコ横浜の会場内には、各セッションの映像を配信するための特設スタジオを設け、計17回線34チャンネル(うち、別会場の紀尾井カンファレンスが1回線2チャンネル)の大規模なライブ配信を実現しました。



紀尾井カンファレンスに設けたライブ配信ステージ

### オンライン学術集会に適した「特設サイト」を開設

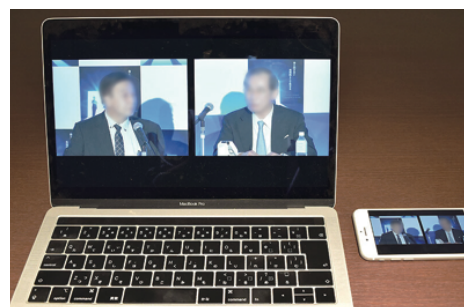
オンライン環境に適した、新しい形の学術集会の開催形式を追求した特設サイトを公開。司会、演者の方々には、遠隔地からWeb会議形式で各セッションに参加していただき、参加者の方々にはチャットやQ&A機能を通して質問や意見を述べる環境をつくりました。これらを実現するには、Zoom等の「コミュニケーションツール」との連携が重要になります。オンライン開催では現地開催さながらの活発な議論に展開するための工夫が「必須要件」となるため、これらのツールを活用したファシリテーション・進行は、会全体の「活気・賑わい」の鍵を握っています。



特設サイト (左:パソコン、右:スマートフォン)



世界の外科と日本外科学会の歴史を並列で振り返る年表を特設サイト上に設置  
学術集会のコンセプトビデオをはじめ、映像制作を駆使し、効果的に演出



対談形式のトークセッション  
(セッションの形式により、最適なツールを導入)

## オンライン配信会場における感染症対策

オンライン開催においても、会場に主催者、講演者、運営スタッフが集まるため感染症対策の実施は不可欠です。赤坂プリンスホテル跡地の紀尾井カンファレンスでは、新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに沿ったマニュアルを作成し、本格的なライブ配信ステージを設営。主催者をはじめ、VIP登壇者の皆さまには会場までお越しいただき、「COVID-19緊急企画」をはじめとする注目セッションはリアルタイムでライブ配信しました。



「オンライン参加者」にメッセージを届ける  
本格的な配信ステージ

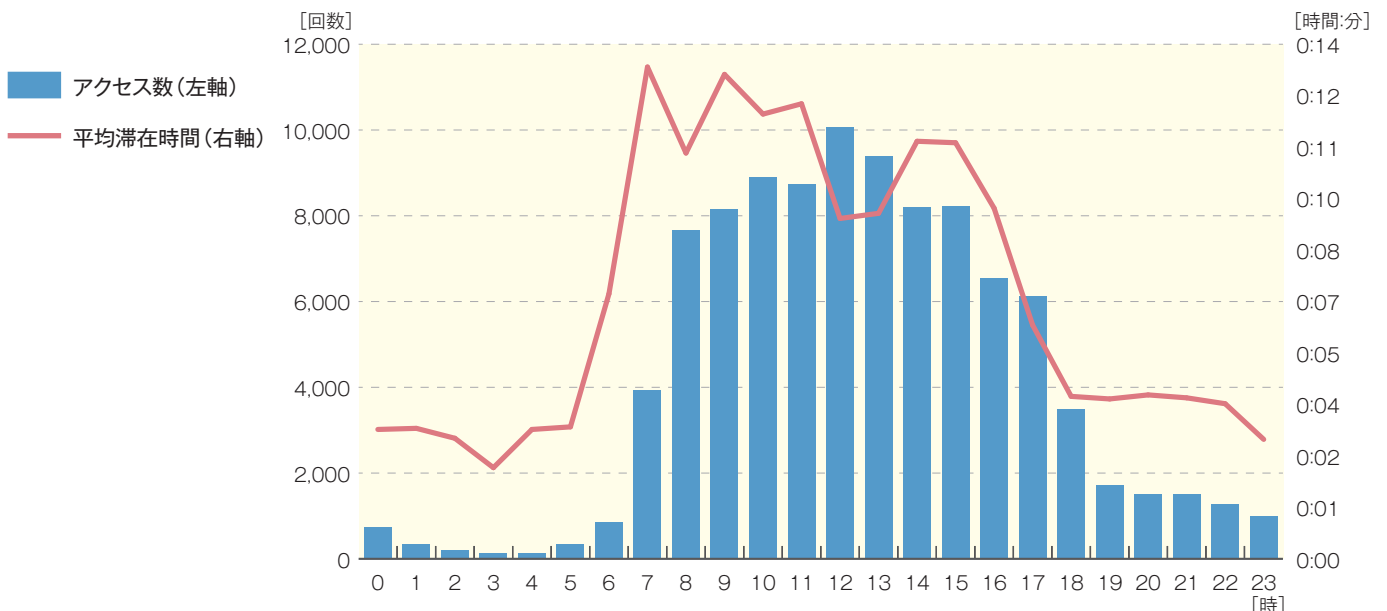


ライブセッションを17回線34チャンネルで配信

## アクセス解析で、参加者の「アクセス・動向」を可視化

今回の学術集会はインターネットを活用して開催されました。よって、Webサイトを「アクセス解析」することで“参加者の行動パターン”が考察できます。例えば、参加者が最も多く集まる時間帯は、12時～13時でした。デバイス環境(パソコン、スマートフォン、タブレット)やログイン割合も把握することが出来ます。このように、アクセス解析をもとに参加者のアクセス・動向を可視化できる点は、オンライン開催の大きなメリットです。

### ■ 時間別：アクセス数と平均滞在時間





### ハイブリッド学術総会を金沢で開催

大阪国際会議場を舞台に2020年5月開催を予定していた「第40回日本脳神経外科コンgres総会」は、新型コロナの収束予測が難しい状況を重く受け止め、感染リスク対策を徹底する方針に舵を切りました。よって、開催時期を8月に延期し、現地とオンラインの両方から参加可能な「ハイブリッド学術総会」の開催方式に変更しました。

開催会場は、新たに金沢市・石川県立音楽堂を選定。座長・演者の皆さまは9割がリモート、1割が現地までお越しになり、全てライブ配信でリアル・オンラインの両方から視聴・受講いただきました。



#### 約5,000名が現地とオンラインから参加

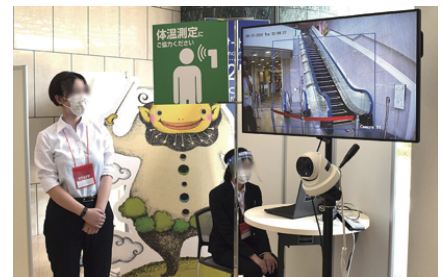
初日の「プレナリーセッション」は、最大で2,800名の同時視聴を記録することができ、オンライン環境ならではの反響を目にすることができました。また、現地参加を可能にするハイブリッド開催ということで、感染防止対策に最大限配慮し、入念に開催計画を練った上で開催されました。



現地会場の様子



感染対策を呼びかけるポスター掲示と  
アクリル板を設けた受付窓口



動線各所に設けたサーモグラフィーと  
接客スタッフ全員のフェイスガード装備

#### 次世代の「MICEの開催形式」は、より参加者ファーストな世界へ

昨今、多様化する社会の中、With・After コロナの問題だけでなく、次世代の通信インフラ環境(5G:第5世代移動体通信)への対応が求められる世界も間近に迫っています。「移動を伴わない」「会場にいるかのような体験」「究極の利便性」といったオンラインならではの恩恵により、MICEに求めるニーズが大きく変化していることを実感している人は多いのではないのでしょうか。一方で、会期中に聞こえてきた声で印象深かったのは「直接的な人との対話、人との交流」という、対面によるコミュニケーションを期待する参加者の願いでした。ハイブリッド開催は、参加者の多様なニーズに応える次世代の「MICEのカタチ」と言えます。

## 参考資料

一般社団法人 日本コンベンション協会  
(2021年)  
『新型コロナウイルス感染症禍におけるMICE開催のためのガイドライン』

---

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー  
(2021年)  
『ウィズコロナ社会におけるMICE 京都モデル』

---

三重県 雇用経済部 観光局 海外誘客課  
(2021年)  
『国際会議等MICE主催者向け開催ガイドラインおよび実践実例集』

---

公益財団法人 東京観光財団  
(2021年)  
『東京MICE開催のための安全・安心ガイドライン』

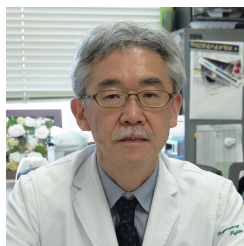
## 監修

藤田 昌樹 (ふじた まさき)

福岡大学病院 呼吸器内科 教授 副病院長

日本呼吸器学会呼吸器指導医・専門医

日本感染症学会感染症指導医・専門医



MICE JCSモデル Withコロナ社会における安全・安心なMICE開催



発行 日本コンベンションサービス株式会社  
<https://www.convention.co.jp/>  
発行日 2021年7月